

平成 17 年 8 月 20 日

4 号機原子炉格納容器内における廃液流量の増加について

4 号機は平成 17 年 8 月 16 日より原子炉を起動中ですが、8 月 19 日午後 11 時 15 分頃、原子炉格納容器内の低電導度廃液サンプル^{*1}および高電導度廃液サンプル^{*2}の流量が増加していることを確認しました。

調査の結果、原子炉冷却材再循環ポンプ（A）のドレン弁のゆるみがあったため、原子炉圧力が上昇した際に上記廃液の流量が増加してしまったことがわかりました。その後、本日、当該ドレン弁の増し締めを行い、漏えいが止まったことを確認しました。

当該ドレン弁のゆるみについて調査したところ、当該弁の点検確認時に手動で開閉した際、当該弁の全閉操作をしたものの完全に締め付けられておらず、結果として、プラント起動時の原子炉圧力および水温の上昇により、当該弁の締め付け状態が変化し、漏えいに至ったものと推定しました。

対策として、当該弁の点検確認等で手動操作を行う際は、操作終了後に電動駆動でより確実に閉操作を行い、全閉状態を確認することを手順書に記載することとします。

なお、これによる外部への放射能の影響はありません。

以 上

* 1 : 低電導度廃液サンプル

機器からの排水、試料採取の廃液等を受けるタンクです。

* 2 : 高電導度廃液サンプル

機器、配管等から床に漏れた水（床排水）やプラント内の水質分析時の排水（化学排水）を受けるタンクです。

「当社原子力発電所における不適合事象の公表方法の見直しについて」（平成 15 年 11 月 10 日お知らせ済み）における、区分 に該当するものとしてホームページに掲載したものです。